



空知地方の月形町を支える産業は農業です。その中でも主力となるのがコメと花の生産です。北海道の中でも有数の花産地の月形で、こども記者まなつくの2人がカーネーションなどをさいばいする花農家にさいばい方法や仕事の大変さなどを取材しました。

(久川凌生)

カーネーション 18時間の光必要

「このくらいさいていると切り花として収穫できる」と説明する花農家の山田肇さん(右)。話を聞く西川侑呂さん(中央)と、タブレットで写真におさめる石塚永愛さん



まなつくは空知管内奈井江町・奈井江小5年の石塚永愛さんと岩見沢市・北村小4年の西川侑呂さんの2人です。

「月形の花」の歴史は1971年に7戸の生産者によって始まりました。多いときは110戸にまで増えました。が、2024年は46戸の生産者が58分の土地で、78品目358品種の花をさいばいしています。2人は、カーネーションのものあれば、つぼみの状態

「月形の花」の歴史は1971年に7戸の生産者によって始まりました。多いときは110戸にまで増えました。が、2024年は46戸の生産者が58分の土地で、78品目358品種の花をさいばいしています。2人は、カーネーションのものあれば、つぼみの状態

「まなつく」は、まなぶんの「まな」と、「行く・聞く・書く」に由来する愛称です

こども記者 まなつく 見ぶん 録

生産者 夜は照明／二酸化炭素与え成長補う

態のものまでさまざまです。カーネーションは暖かさを好むため、寒い冬はボイラーでハウスの中を暖めるそうです。西川さんが「何度にするんですか」と質問すると、山田さんは「15度以上が理想だけど、特に2月ごろは外気温も低いので13〜15度で育てています」と説明してくれました。

別のハウスも見せてもらいました。ハウスには、背丈ほどの四角い箱のような機械があります。石塚さんが「この機械はなんですか」と質問。「植物の成長に必要な二酸化炭素を作る機械です。冬にハウスを閉め切っていると、どんどん二酸化炭素が減ってしまうので、この機械で補ってあげるんです」と、「光合成」の仕組みを分かりやすく説明してくれました。

カーネーションの成長には1日18時間の光が必要。そのため、太陽がしずんでいく午前3〜6時、午後6〜9時は照明をつけて明るくします。「花農家は一本一本、花の状態を確認して収穫するので、午前4時ごろには仕事を始めているんですよ」と山田さんに教わりました。まなつくの2人は朝早くから仕事をしていることにおどろいた様子でした。

月形町産の花を使った花束作りに熱心に取り組む石塚さん(右)と、手に付いたユーカリの香りを確認する西川さん



花束作り 協力隊員に教わった

まなつくの2人は月形町産の花を使った花束作りにも挑戦しました。月形町の花を町外へ広げる活動をしている地域おこし協力隊の石原絢子さん(41)に作り方を教わりながら、山田さんからいただいたカーネーションやユーカリのほか、町内で生産されたケイトウやスターチスなどを組み合わせて作りました。

石原さんは「くきの半分以上より下側の葉っぱは取ってね」「枝分かれしているお花は使いやすいように何本かに分けてみましょう」となど手順を説明してくれました。

約1時間かけて花束は完成。西川さんはかかえるくらい大きな花束を一つ作り、「どんな風に並べたらいいのかわかりましたけど、うまく作れた。部屋にかざりたい」と笑顔です。石塚さんは小さな花束を二つ作り「カーネーションでミッキーマウスの形を作ろう」とがんばったとこだわった点を教えてくれました。

赤、白、緑のカーネーションをメインの花に選んで花束を作った西川さん



花束の中にミッキーマウスの形を作ろうとがんばった石塚さん